

平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)
「災害時小児・周産期医療体制の構築と認知向上についての研究」
研究代表者 海野信也 (北里大学医学部産科学)

分担研究報告書

「大規模災害時の小児医療関連情報の収集と共有に関する研究」

研究分担者 井田孔明 (帝京大学医学部附属溝口病院小児科・教授)
米倉竹夫 (近畿大学医学部奈良病院小児外科・教授)
伊藤友弥 (あいち小児保健医療総合センター・医長)
岬美穂 (国立病院機構災害医療センター・医師)
大木茂 (隷浜松病院総合周産期母子医療センター・部長)
中村友彦 (長野県立こども病院・院長)
井本寛子 (日本看護協会・常任理事)

研究要旨

大規模災害時には、都道府県庁に設置される保健医療調整本部内に配置される災害時小児周産期リエゾンが、小児周産期領域の支援活動の中心的役割を果たすことが求められ、2019年3月には厚生労働省から都道府県に対して「災害時小児周産期リエゾン活動要領」が交付された。本研究では、災害支援が円滑に行われるために、小児領域における被災地内外の様々な情報を収集・共有し、災害時小児周産期リエゾンに効率的に有用な情報を提供するシステムの構築を目指している。

小児領域の災害情報は多岐に渡り、また急性期から慢性期にかけて変化するため、入力する内容に応じて、「診療支援」「医療搬送」「物資支援」「本部情報」「災害対策資料」の項目を設け、掲示板として活用することを考えた。アップロードの権限については、情報の混乱を防ぐために日本小児科学会やいくつかの分科会、日本小児医療保健協議会(四者協)小児周産期災害医療対策委員会、PICU 協議会などの災害対策委員会に限定して付与することにした。来年度も議論を深め、アップロード権限を付与する学会や協議会の追加および入力項目の見直し、掲示板の付加機能などにより、さらに災害時小児周産期リエゾンが利用しやすい掲示板の作成を検討する予定である。また、現在この掲示板は日本産科婦人科学会の「大規模災害対策情報システム」の中に構築されているが、今後の継続性を勘案して掲示板の入り口を日本小児科学会のホームページ上に移行することが決まった。来年度中に移行手続きを完了し、以後の管理運営も日本小児科学会が行う予定である。

A 研究目的

大規模災害時には、都道府県庁に設置される保健医療調整本部内に配置される災害時小児周産期リエゾンが、小児周産期領域の支援活動の中心的役割を果たすことが求められている。

本研究では、災害支援が円滑に行われるために、小児領域における被災地内外の様々な情報を収集・共有し、災害時小児周産期リエゾンに効率的に有用な情報を提供するシステムを構築することを目的としている。

B 研究方法

本海野班の班会議(平成29年9月17日)および日本小児科学会災害対策委員会(隔月に開催)の中で議論を行った。

C 研究成果

今年度は以下のような掲示板を作成する方向で議論を行った。

1. 情報共有の方法

- ・日本産科婦人科学会が整備しているWEB上の情報共有掲示板を活用する。
- ・各領域(循環器、腎臓、アレルギー、血液腫瘍、外科など)からファイルを掲示板の上にアップする。

2. アップロード権限

- ・各領域の災害担当者(災害対策委員会など)にID/PWを付与する。
- ・災害時小児周産期リエゾン・小児科学会災害対策委員会は代理入力を可能とする。

3. アップロード権限を付与する小児領域

まずは、以下の学会・協議会に権限を付与する。今後、必要に応じて増やす。
日本小児科学会、日本小児医療保健協議会(四者協)小児周産期災害対策委員会、日本小児救急医学会、日本小児循環器学会、日本小児血液・がん学会、日本小児腎臓学会、日本小児アレルギー学会、日本小児神経学会、日本先天代謝異常学会、日本小児内分泌学会、日本小児精神神経学会、日本小児心身医学会、日本国際保健医療学会、PICU協議会

4. 参照権限

上記の領域と災害時小児周産期リエゾンについてはアップロード権限/参照共に可能、上記の領域以外については参照のみとする。

5. 掲示板のプルダウン項目

以下のプルダウン項目を提案する。それぞれの項目に対応した書式を予め用意しておき、領域ごとに大きく書式が変わらないようにしておく。

診療支援(各専門領域ごと)、医療搬送、

物資支援、本部情報、災害対策資料

6. その他

- ・アップロードされた際に、自動的にファイル名の日時が入るようにする。
- ・上書きはできないようにする。
- ・掲示板入力画面で前述の「項目」「領域」を選択できるようにし、掲示板アップ時には件名の先頭に「項目」が記載されるような形にする。
- ・項目、領域、日時でソートできるような機能があるとなお良い。

なお、現在この掲示板は日本産科婦人科学会の「大規模災害対策情報システム」の中に構築されているが、今後の継続性を勘案して掲示板の入り口を日本小児科学会のホームページ上に移行することが決まった。

D 考察

小児領域の災害情報は多岐に渡り、また急性期から慢性期にかけて変化することを踏まえ、小児領域の災害情報システムとしては掲示板が有用であると考えた。また情報の混乱を防ぐために、いくつかの学会や協議会の災害対策委員会に限定してアップロード権限を付与することにし、また整理された情報を提供するために、支援内容を項目別に入力する方法を提案した。

来年度も議論を深め、アップロード権限を付与する学会や協議会の追加および入力項目の見直し、掲示板の付加機能などにより、さらに災害時小児周産期リエゾンが利用しやすい掲示板の作成を検討する予定である。

E 結論

小児の災害情報システムとして、領域と項目別に入力可能な掲示板の作成を検討した。来年度はアップロード権限を付与する学会や協議会の追加や項目の見直しなどにより、さらに災害時小児周産期リエゾンが利用しやすいシステムの構築を検討する予定である。

F.健康危険情報

なし。

G.研究発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。